

(9) 研究課題評価

ア 実施状況

① 対象

県立試験研究機関が行う試験研究開発課題（調査、分析を含む。以下「研究課題」という。）のうち、次に掲げるものを対象とする。

ただし、研究を含まない技術移転、普及及び指導のみに係るものについては評価の対象としない（研究計画が技術移転、普及及び指導を含むものであるときは、当該技術移転、普及及び指導についても評価の対象とする。）。

(1) 目的設定

新たに予算計上しようとする研究課題

(2) 中間評価

令和2年度以前に着手し、令和3年度に予算計上している研究課題及び研究機関を延長しようとする研究課題

(3) 事後評価

令和2年度に終了した研究課題

○実施件数

目的設定	12件	※令和3年度当初予算関係
中間評価	23件	
事後評価	16件	

② 実施時期

(1) 目的設定 令和2年10月

(2) 中間評価 令和3年 6月

(3) 事後評価 令和3年 6月

③ 評価に用いた観点及び判定基準

(1) 目的設定

観点	考察項目
必要性	○政策的妥当性
有効性	○研究開発効果
技術的達成可能性	○技術的達成可能性
	○研究計画・研究体制の妥当性

(2) 中間評価

観点	評価項目	判定基準
必要性	○ニーズの状況変化	A ニーズの増大とともに研究目的の意義も高まっている
		B ニーズに大きな変動はない
		C ニーズの低下とともに研究目的の意義も低くなってきている
		D ニーズがほとんどなく、研究目的の意義がほとんどなくなっている
有効性	○効果	A 大きな効果が期待される
		B 効果が期待される
		C 小さな効果が期待される
		D 効果がほとんど見込めない
目標達成可能性	○進捗状況	A 計画以上に進んでいる
		B 計画どおりに進んでいる
		C 計画より遅れている
		D 計画より大幅に遅れている
	○目標達成阻害要因の状況	A 目標達成を阻害する要因がほとんどない
		B 目標達成を阻害する要因が少しある
		C 目標達成を阻害する要因がある
		D 目標達成を阻害する要因が大いにある
総合評価	A	当初計画より大きな成果が期待できる
	B+	当初計画より成果が期待できる
	B	当初計画どおりの成果が期待できる
	C	更なる努力が必要である
	D	継続する意義は低い

(3) 事後評価

観点	評価項目	判定基準	
目標達成	○最終到達目標の達成度	A	十分達成できた
		B	ほぼ達成できた
		C	達成できなかった
有効性	○研究成果の効果	A	効果大
		B	効果中
		C	効果小
		D	効果測定困難
総合評価	S	当初見込みを上回る成果	
	A	当初見込みをやや上回る成果	
	B	当初見込みどおりの成果	
	C	当初見込みをやや下回る成果	
	D	当初見込みを下回る成果	

イ 研究課題評価結果の概要及び評価結果の反映状況

○評価結果の概要

中間評価及び事後評価の詳細は、次頁の一覧表及び各評価調書を参照

○反映状況

■ 中間評価

研究計画内容の見直しや研究課題に係る今後の対応方針及び予算要求に反映させるとともに、予算要求・予算編成の資料として活用

(個別課題の対応状況は、各評価調書を参照)

■ 事後評価

実施中又は将来の類似研究の課題設定等に反映させるとともに、研究機関の研究基本方針や研究計画の策定の検討資料として活用

中間評価（継続研究課題）結果一覧

No	課 題 名	研究機関名	事業年度	評価				
				ニーズの 状況変化	効果	進捗状況	目標達成 阻害要因 の状況	総合評価
1	微細気泡を利用した新食感食品の開発と応用	総合食品研究センター	R2～R4	B	B	B	B	B
2	秋田ブランドを確立する花き新品種育成	農業試験場	H30～R4	A	B	B	B	B
3	第5期次世代銘柄米品種の開発	農業試験場	R1～R5	B	B	B	B	B
4	野菜の競争力強化を目指した新栽培技術の開発	農業試験場	R1～R5	A	B	A	A	B+
5	先端技術を活用した新たな園芸作物病虫害防除技術の確立	農業試験場	R1～R5	A	B	B	A	B+
6	花きの市場競争力強化を目指した新栽培技術の開発	農業試験場	R2～R6	A	A	B	A	B+
7	野菜オリジナル品種の育成と親系統等の増殖	農業試験場	R2～R6	B	B	B	B	B
8	果樹産地再生の基盤となる新品種の育成と選抜	果樹試験場	H28～R7	B	B	B	B	B
9	ニホンナシ黒星病の総合防除法の確立	果樹試験場	R2～R4	B	B	B	B	B
10	多雪地帯におけるリンゴジョイント栽培の生産性および耐雪性評価	果樹試験場	R2～R6	A	B	B	B	B
11	牛肉におけるモモの脂肪交雑を改善する肥育技術の開発	畜産試験場	R1～R5	B	A	B	A	B+
12	ハタハタの資源変動と漁場形成に関する研究	水産振興センター	R1～R5	A	B	B	B	B
13	湖沼河川における水産資源の安定化と活用に関する研究	水産振興センター	R1～R5	B	B	B	B	B
14	漁業・流通支援システムの構築に関する研究	水産振興センター	R2～R6	A	A	B	B	B+
15	種苗生産・放流技術の高度化に関する研究	林業研究研修センター	R2～R6	A	B	B	B	B
16	内水面重要魚種の増殖技術の高度化に関する研究	林業研究研修センター	R2～R6	A	B	B	A	B+
17	ニホンジカの個体数を制御するための生息環境の解明	林業研究研修センター	H30～R4	A	B	B	A	B+
18	菌床シイタケのスマート栽培技術の開発	林業研究研修センター	R1～R5	A	B	B	A	B+
19	秋田スギの低密度植栽に対応した新施業体系の確立	林業研究研修センター	R2～R6	A	A	B	A	B+
20	電解砥粒制御技術を用いた新たな切断技術の開発	産業技術センター	H30～R4	B	B	B	B	B
21	人工知能とVR技術の融合によるインテリジェント検査システムの開発	産業技術センター	R2～R4	B	B	B	B	B
22	フィラー高充填樹脂コンポジットの精密成形技術の開発	産業技術センター	R2～R4	B	B	B	B	B
23	導電性を持つ次世代型多機能セラミックスの開発	産業技術センター	R2～R4	B	B	B	B	B

事後評価（令和２年度終了研究課題）結果一覧

No	課 題 名	研究機関名	事業年度	評価		
				目 標 達成度	効果	総合評価
1	酒造工程の微生物を制御することによる日本酒の高品質化技術	総合食品研究センター	H30～R2	A	A	A
2	いぶりがっこの効率的生産方法の確立と原料ダイコンの加工適性解明	総合食品研究センター	H30～R2	B	B	B
3	新規コメ発酵素材(調味料)の開発・応用と機能性	総合食品研究センター	H30～R2	B	B	B
4	新規食中毒原因菌エシェリキア・アルバーティ어의迅速検出法の検討と感染源の解明	健康環境センター	H30～R2	A	A	S
5	米生産の多様化に対応した省力・低コスト水稻病害虫防除技術の確立	農業試験場	H28～R2	A	B	B
6	大規模経営体の園芸部門における労働力確保条件に関する研究	農業試験場	H30～R2	B	B	B
7	ナシ・ブドウ・モモ・その他果樹の育成系統及び新品種の適応性検定試験（第４次）	果樹試験場	H23～R2	B	B	B
8	リンゴの収穫果および貯蔵果に生じる黒斑症状の原因解明と防除法の確立	果樹試験場	H30～R2	A	A	S
9	比内地鶏の飼料体系の確立および品質の安定化に関する研究	畜産試験場	H29～R2	A	B	B
10	比内地鶏の行動特性を応用した生産方法の開発	畜産試験場	H30～R2	B	B	B
11	海岸防災林の低コスト造成手法の開発	林業研究研修センター	H28～R2	A	B	B
12	初期成長に優れたスギ次世代精英樹の開発	林業研究研修センター	H28～R2	A	A	S
13	マツタケ等菌根性キノコの生産・増産技術の開発	林業研究研修センター	H28～R2	B	B	B
14	新規電磁場センシング・ワイヤレス給電技術の研究開発	産業技術センター	H28～R2	A	A	A
15	自動車用複雑形状部品のための熱変形レスレーザ焼入れ技術に関する研究	産業技術センター	H30～R2	A	B	B
16	IoT・AIを活用した生産工程のスマート化に関する研究	産業技術センター	H30～R2	A	A	A